

東通原発地点海域温排水等影響調査

木村 大・石川 哲・奈良賢静

発 表 誌 名

昭和57年度東通原発地点海域温排水等影響調査報告書

抄 録

1. サケ稚魚分布調査

5～6月にかけ延5回（延80点），イカナゴ光力利用敷網により，1調査点10分間点灯し，サケ稚魚を採集した。サケ稚魚は水深の浅い調査点（水深5 m）に多く分布していた。海域では老部川沖～白糖港で多く，特に白糖港港口では1,000尾を越えて入網したこともあった。また尻労港前でも多数目視されたが，これらの場所の海底はほとんど岩礁域となっていた。

老部川におけるサケ稚魚放流状況及び標識魚の再捕状況から見て，尾叉長モード3～4 cm台で出現するものが老部川放流魚と考えられ，放流後4～5日という短期間に，尻労沖まで北上していた。

2. 漁 獲 量 調 査

白糖及び小田野沢漁業協同組合資料により，漁業種類別魚種別漁獲量を調査した。漁業種類別魚種別漁獲量では小型定置網が全体の84%を，魚種別ではサケが80%と大部分を占めていた。小型定置網で多獲された魚種はサケであり，刺網ではサケ，ババガレイ，カニ，一本釣ではメヌケ，マグロ，サクラマスであった。

年別漁獲量を見ると，サケは53年以降急増し，57年には過去最高の733トンとなった。